むかしむかし

昔々のそお市

郷土を知る

社会教育課 文化財係 ☎ 099-482-5958

第18回

生誕200周年 幕末の志士 有馬厚軒（後編）

二度の歴史的事件に関われなかった有馬厚軒ですが、その天命は、生きて郷土の発展に寄与することにあったといえます。

厚軒は医業を務める傍ら、元治元年（一八六四）7月、鹿児島造士館の句読師に抜擢、そして同年11月、藩命により郷中子弟の教育を任されます。

帰郷した厚軒は、慶応4年正月11日、郷校「知新館」を末吉に創設、同年2月には荷原の寺跡を学校として利用し、多くの子弟を教授、主に漢学を教えました。

時代は幕末から明治へと大きく転換する中で、厚軒は末吉の教育の礎をつくり、学制発布後も人材育成に尽くしました。また、その教育水準は、藩内に十余ある郷校の中で、第1位に推されたともいいます。

西南戦争以降も、その学徳を慕い、知新館には岩川・松山・恒吉・市成などからも有能の士が遊学に来るようになり、まさに末吉は曽於郡内の文教の中心地となりました。

著名な弟子としては、高原篤行（末吉初の衆議院議員）や迫田為幸（第6代末吉村長）、東郷実行（第4代財部村長）らがいます。また、鹿児島の西徳二郎（駐ロシア公使・外務大臣）も教えを深く受けています。西は優秀な人物で、厚軒は自身の養子に願っていたといわれています。

明治21年（一八八八）9月23日没、68歳でした。激動の時代を生き抜き、郷土教育の発展に貢献した生涯でした。墓は宝珠庵城内にあります。

そして50年の時が流れ、昭和13年9月23日の命日には、慰霊祭が盛大に行われ、頌徳碑と居住之地の碑が建立、併せて伝記も編纂され、その威徳が偲ばれました。

有馬厚軒の墓

今年10月5日は、有馬厚軒の生誕から200年の節目です。この機会にその功績を振り返ってみるのはいかがでしょうか。

有馬厚軒先生傳

もっと詳しく知りたい方は、「有馬厚軒先生傳」を、曽於市立図書館で閲覧できます。